

館報

庄内



庄内地区	
令和5年3月1日現在人口	
世帯数	7,198戸
男	7,310人
女	7,355人
合計	14,665人
発行 庄内地区公民館 (ゆめひろば庄内)	
電話 24-1811	
FAX 24-1812	

今年一年の活動を振り返って

今年、町会役員の入れ替わる時期と公民館主事の交替が重なり、ほぼ新しいメンバーで公民館報庄内版の編集委員会が始まりました。まず、過去の館報にも町会の紹介はありましたが、改めて第98号より、庄内地区15町会の地区内における位置・世帯規模を含めて紹介しようということになりました。各町会長に記事をお願いしました。併せて町内公民館長にも公民館や活動の事、思い出などの原稿をお願いしました。さらに、今年度の目指した活動のポイント、以下の2点です。

1. 年6回発行の館報は、紙面の内容検討が、実際の発行の2ヶ月前です。その時差に気を付けて読み手にとってタイムリーな記事になるようにする。
2. 今までは、公民館主事に頼り過ぎていたことを反省し、編集委員が内容に関わる現場に Outreach 取材をしよう。編集



3月1日(水) 館報編集委員会にて

委員が記事を書いていこう。一年が終わり、振り返りますと、みんなでポイントが満たされるようにがんばってききました。各号ごとに編集委員会で、内容が正確に伝わるように、誤解が生じないようにと、使用に適した漢字や数字、細かい表現の仕方などをひとつひとつ丁寧に検討したことが思い出されます。

限られた時間・紙面・マンパワーでは、難しいことも多いですが、これからも庄内地区住民の知りたい情報を提供し、生活課題を取り上げていきたいと思えます。

(館報編集委員長 久保由美子)

退職のごあいさつ



筑摩小学校長 熊谷 賢一

◆「挑戦し続ける」

「コロナ禍の3年間。安全安心な学びの環境づくりに取り組み続けたこの期間を通して、人と人が共に過ごせることの大切さを感じました。嬉しいことも悲しいことも、喜怒哀楽の様々な思いを、同じ時間同じ空間で共有することが、かけがえのない一瞬一瞬なのだと思います。そして、子どもたちのたくましさや再発見し、この子どもたちが創り上げる未来への希望を感じました。2年前に導入したタブレットを活用し、子どもたちは新たなつながりの持ち方を試行しています。

例えば児童総会。今年、筑摩小では議案書はPDFファイルでクラウドを利用して配布して検討しました。質問意見はアンケートアプリを使って回収しました。児童総会は

Google MEETを活用して教室をつないでの開催でした。(昨年度は自宅から総会に参加した児童会役員もいました)

時代の変化に合わせ、子どもたちもたくましく変わってきています。自律に向けたチャレンジを続けています。

こうした子どもたちの自律を支えるため、筑摩小では、職員からの3つの言葉かけ「①どうしたの? ②どうしたいの? ③先生になにをしてほしい?」(「自律する子の育て方」工藤勇一・青砥瑞人著・S・B新書)を大切に、子どもたちが当事者意識を持ち、自己決定できる力を伸ばす方向で学校づくりを進めています。

新年度4月からは対面での行事や活動ができています。何が大切なのかを問い直し、「自己決定できる子ども、挑戦できる子ども」の育成に向けた学校づくりを進めていきます。

母校の筑摩小学校で学校づくりを進められたことに幸せを感じています。

「思いはつながり深くなる、人はつながり強くなる」このことを改めて学ぶことができました。充実した素敵な3年間でした。ありがとうございました。

この度公民館長を退任することになりました。

平成30年度から、皆様方にはお世話になりました。

公民館の事業の中に、学校コミュニティスクールの事業があります。これは地域と学校が協働して子どもを育てることを目指した事業で、公民館長は、学校と地域を繋ぐコーディネーター役となります。この地域には開成中学校・筑摩小学校・並柳小学校の3校があり、それぞれの事業が実施されています。コロナ禍で事業を中止したり、縮小したり、工夫して取り組みをしてきました。学校にボランティアとして、ご協力いただいた方々には本当に温かいお力添えをいただき、ありがとうございました。

これから公民館は、生きがいづくり、地域防災、地域包括ケアの拠点として、一層重要となります。

地区の皆様方のご協力・ご支援により、価値のある公民館となりますようお願いいたします。

皆様方のご健勝を祈念申し上げ、退任のあいさつとさせていただきます。

庄内地区公民館長 筒井 文男

### シリーズ4 地区の町会を知ろう!

**南新町2**

R5.3.1現在  
世帯数:55  
人口:124人  
〔男:62人 女:62人〕

#### 南新町2丁目町会活動の紹介

南新町は、大正3年4月に区長制がしかれ、この際に命名されました。

町名の由来は、女鳥羽以北の新町（江戸時代の武家屋敷町）に対して、川南にあたることにより命名されました。当初、南新町は1丁目・2丁目・3丁目まであったと記録に残されています。

町会活動のなかで、長年続き誇れる活動が三つあります。

#### 1.「元日マラソン」

この活動は、本年度38年を迎えました。発足時は新年会に変えて、老若男女の町民が一同に集まり元日に体を動かして新年の挨拶を交わし、1年間平穩に過ごせることを願い始めたこのことです。

#### 2.ファミリースポーツまつり

昔は、青年部が中心となり、運動会・地区野球大会など体を動かす活動がありました。年々世帯数減少に

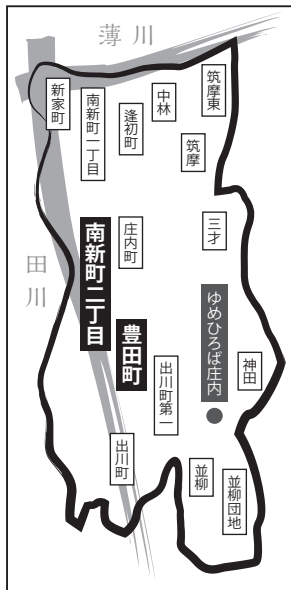
より運動をすることが少なくなり考え出した活動がファミリースポーツまつりです。この活動も本年度20回目となり、今は庄内体育館でニュースポーツを中心に楽しんでいます。

#### 3.「夜警」

住民が中心となり、年末から年始にかけて町内の夜警（火の用心）を40年間住民の協力のもと実施しています。

これらの町会行事活動も住民の協力により長年継続してきましたが、近年住民の高齢化で出席者が減少し、また3年に渡るコロナ禍の影響もあり、各町会行事の縮小・中止など交流の機会も極端に減ってしまいました。この状況下でこそ、役員・住民で工夫を凝らした町会活動の続け、より良い町会を目指していきたいと思っています。

(南新町2丁目町会長 野村 隆幸)



#### 南新町2丁目町会の紹介

私が生まれた頃の通りは、にぎやかな通りで、ほとんどの家が何らかの商売をしていました。一軒また一軒とお店がなくなると今では数えるほどになってしまいました。空き家が目立つようになり、戸数も半分くらいになり、コロナの関係で公民館の各種行事や町会での交流の機会も減ってしまいました。公民館の役割も少しずつ変化していると思いますが、今後も公民館活動をどう続けていくかを、館長として何ができるかを、他の町会の公民館活動をお聞きして、公民館を活用するやり方を考えたいです。

数少ない世帯数ではありますが、皆で協力してより良い町会にしていきたいです。

(南新町2丁目町会内公民館長 各務 則昭)

**豊田町**

R5.3.1現在  
世帯数:354  
人口:745人  
〔男:389人 女:356人〕

豊田町は、住居や事業所を合わせるのと、300戸余りになりま。居住者は、古くからの戸建て住民、区

画整理後に転入してきた住民、マンションや集合住宅の住民に大別されます。それぞれの家族構成やライフスタイルが異なり、地域や町会への関わり方も様々です。

近年はコロナ禍の影響で対面的な行事はほとんど行えていませんが、例年はPTAや高齢者クラブ等と共同して様々な行事を行っています。なかでも、納涼祭では、公民館前の道路に屋台や子ども遊戯テントなどを出して皆さんに楽しんでもらっています。

住民間の交流に加え、町会が力を入れているのが防災です。町内3か所に防災倉庫を設置して、発電機・簡易トイレ・テントなどを保管しています。また、防災研修会や防災訓練を毎年実施し、防災意識の向上と普段の備えに努めています。町名は「榎田」が転じたとされています。もう町内に水田はありませんが、このころ「豊」な町会です。

(豊田町町会長 吉沢 栄治)



昭和10年代、今の東通りは国道でトラックやバスが荒れた道を盛んに通っていました。牛馬車もまだ使われていて、糞があちこちらに落ちていました。その後国道は高宮に移り、町は東方向に発展し、住民もだんだん増えてきました。

当時の公民館は東通りの裏手にあり、移築物のため傷みがひどく、大勢が集まると床が大きく軋むような状態でした。建て替えは引き込み道路の関係で難しく、新築のための土地探しはさらに困難でした。

長らく公民館新築の候補地が見つからないなか、庄内土地区画整理事業が終わりに近づき、あちらこちらに家が建ち始めていました。町会は事業組合に移転先を相談し、当時の市長の橋渡しや事業組合の配慮もあって、ようやく土地を確保することができました。

新しい公民館は平成18年秋に落成し、多くの町民の皆さんの交流の場として利用されています。

(豊田町町内公民館長 宮内 聡光)  
(※情報提供 堀内 重雄)